

安全は心と時間のゆとりから

秋の全国交通安全運動実施

9月21日(水)～30日(金)の10日間、秋の全国交通安全運動が展開されます。

秋は日没時間が急激に早まります。16～18時の薄暮時間帯は、帰宅の時間とも重なり交通事故発生件数、交通事故死亡者数が多くなっています。

歩行者・運転者それぞれが交通ルールとマナーを身に付け、交通事故に遭わないように心掛けましょう。

歩行者は

・夜間外出するときは、車両の運転者が発見しやすいよう、明

るい色の服装や反射材用品等を身に付けましょう。

・道路を横断するときは、決められた場所で、決められたルールに従って横断しましょう。

運転者は

・運転をするときには、心と時間にゆとりをもちましょう。

・車両のライトは暗くなり始めたら早めに点灯しましょう。

・特に自転車の無灯火運転が多くなっています。大変危険ですので、前方の視界確保や他の車両に対して自身の存在を示すために必ず点灯させましょう。

古布は晴れた日に

資源回収している古布は、発展途上国でリユース(再使用)されたり、ウエスと呼ばれる工業用雑巾に生まれ変わります。

最近、雨の日の収集場所に古布をよく見かけます。古布は濡れるとリユース、リサイクルができなくなり、「燃せるごみ」と一緒に燃やされます。

せっかくの皆さんの分別が無駄になってしまいます。

古布を出すときは、雨の日は避けていただき、雨の降っていない次の収集日に出すようにしましょう。



◎問い合わせ

環境美化センター ☎(72)4438

◎問い合わせ

町民課 ☎内線236



・シートベルトやチャイルドシートは、事故を起こしたときに身体へのダメージを軽減してくれます。運転者はもちろんのこと、同乗者もシートベルトの着用を習慣づけるとともに、6歳未満の幼児にはチャイルドシートを必ず使用しましょう。



今日からはじめよう!

ごみのダイエツト通信 ⑧

どうやって干すの?

「使い切れない野菜が冷蔵庫に眠っている。気づいたときには干からびていて、そのままごみ箱に…」なんてこと、身に覚えはないでしょうか? 今回は、その「余った野菜」がテーマです。

多くの野菜が廃棄処分

農林水産省によると、家庭から出る野菜を含んだ食品廃棄物は年間約1,100万トン。1人当たりに換算すると年間約85kgの食品が、食べられずに捨てられています。

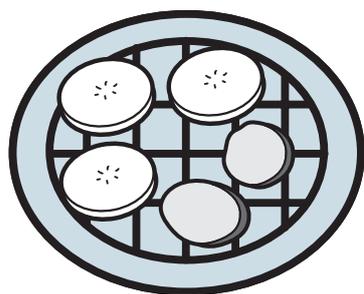
余りもので干し野菜

余った野菜は「干し野菜」にしてみませんか?

野菜を干すと水分が飛んだ分、味が凝縮されます。カボチャなどは、でんぷんが糖化して甘みも増すようです。軽く干すだけで食感が変わり、しっかり干せば長期保存も可能です。味がしみこみやすくなるので、煮物やスープにも向いています。カレールーに入れても、なかなかの味が楽しめるようです。

◎問い合わせ

環境美化センター ☎(72)4438



野菜は干すことで違った「おいしさ」が味わえます。皆さんも試してみたいかがでしょうか。

野菜を干すときは、軒下に洗濯ばさみで挟み、吊るして干したり、新聞紙やザルなどの上に並べて干します。ポイントは、「皮をむかないこと」です。栄養や香りを失わないだけでなく、手間も省け、そのうえ無駄も出ません。